

「台風の備えについて」

梅雨が明けたものの、今年は全国的に大雨による災害が発生しています。今後は台風の時期に入り、災害に対する備えがより重要です。

今回は台風の備えについてご紹介します。

【台風とは？】

各国、地域で呼び方は異なりますが、熱帯や亜熱帯の海上で発生した低気圧（熱帯低気圧）のうち、中心付近の最大風速が 17.2m/s 以上になったものを『台風』と呼びます。



【台風による被害】

強風・・・樹木の倒壊、住宅・建物の損壊

大雨・・・河川の氾濫による浸水や土砂崩れによる道路や線路の寸断

波・・・海岸に近い地域では特に台風の接近と満潮が重なった場合、波や海水による被害もあります

宮崎ではこれまで台風による被害は数多く報告されていますが、なかでも 2005 年の台風 14 号は甚大な被害をもたらしました。宮崎市では大淀川の支流である大谷川が氾濫、小松地区周辺の多くの住宅や病院が浸水しました。

【土石流】

長雨や集中豪雨によって山腹に含まれた水と土砂（土や砂、石）が混ざり崩れ、一気に麓に向かって流れ出るものをいいます。近年はこの土石流による被害が増えています。

【台風の備え】

- ・台風が近づいたら早めに窓や雨戸はしっかりとカギをかけましょう。雨戸のない窓はガラスの破片が飛び散らないようカーテンを閉めましょう。
- ・貴重品（通帳・保険証書・外国人登録証など）はいつでも持ち出せるようにしておきましょう。
- ・断水や停電になる場合があるので飲料水や懐中電灯、携帯ラジオ（予備電池）は普段から準備しておきましょう。
- ・早めに避難場所を確認し、避難勧告が出ていなくても危険を感じたら速やかに避難しましょう。そして何よりも大切なことは、困ったときにもお互い助け合えるよう日頃からの地域の人々とのコミュニケーションです。

宮崎県国際交流協会では、『外国人のための防災パンフレット』（中国語・英語・韓国語版）を作成し、無料配布しています。必要な方は当協会までお越し下さい。なお、遠方の方には送付いたしますのでお問い合わせください。

このコーナーへのご質問、ご意見、ご要望は：(財) 宮崎県国際交流協会

TEL 0985-32-8457 FAX 0985-32-8512 E-mail miyainfo@mif.or.jp